

1. 医療画像連携の現状

PACS (Picture Archiving and Communication System)

CT, MRI, レントゲンフィルムなどの医療用画像データをネットワークでやりとりすること

医療画像データの配信、画像の保存フォーマットは、DICOM という規格で統一されており、地域の病院と地域外専門医など、異なる病院間での連携を可能にする多くのシステムやサービスが提供されています。

しかし、連携用システムやサービスを利用するためには次の課題があります。

- ・利用料金（1施設数万円/月～程度）が必要
- ・院内の医療画像データを連携用のシステムやサービスに登録する手間がかかる
または、医療画像サーバーを連携用のシステムやサービスに連動させる費用がかかる

2. Z連携の利用

特徴

既存の端末（パソコン、タブレット、スマートフォン）で利用可能
低価格で利用可能 ※実証期間中無料

連絡BOX機能



相手（Z連携メンバー）を指定してメッセージのやり取りができる機能

- ・ファイル添付、画像添付可能
- ・メッセージ投稿するとメール通知
- ・やり取りは保存され、関係者のみ参照可能

テレビ電話連動

※現状skype

相手（Z連携メンバー）を指定してテレビ電話をかけられる機能

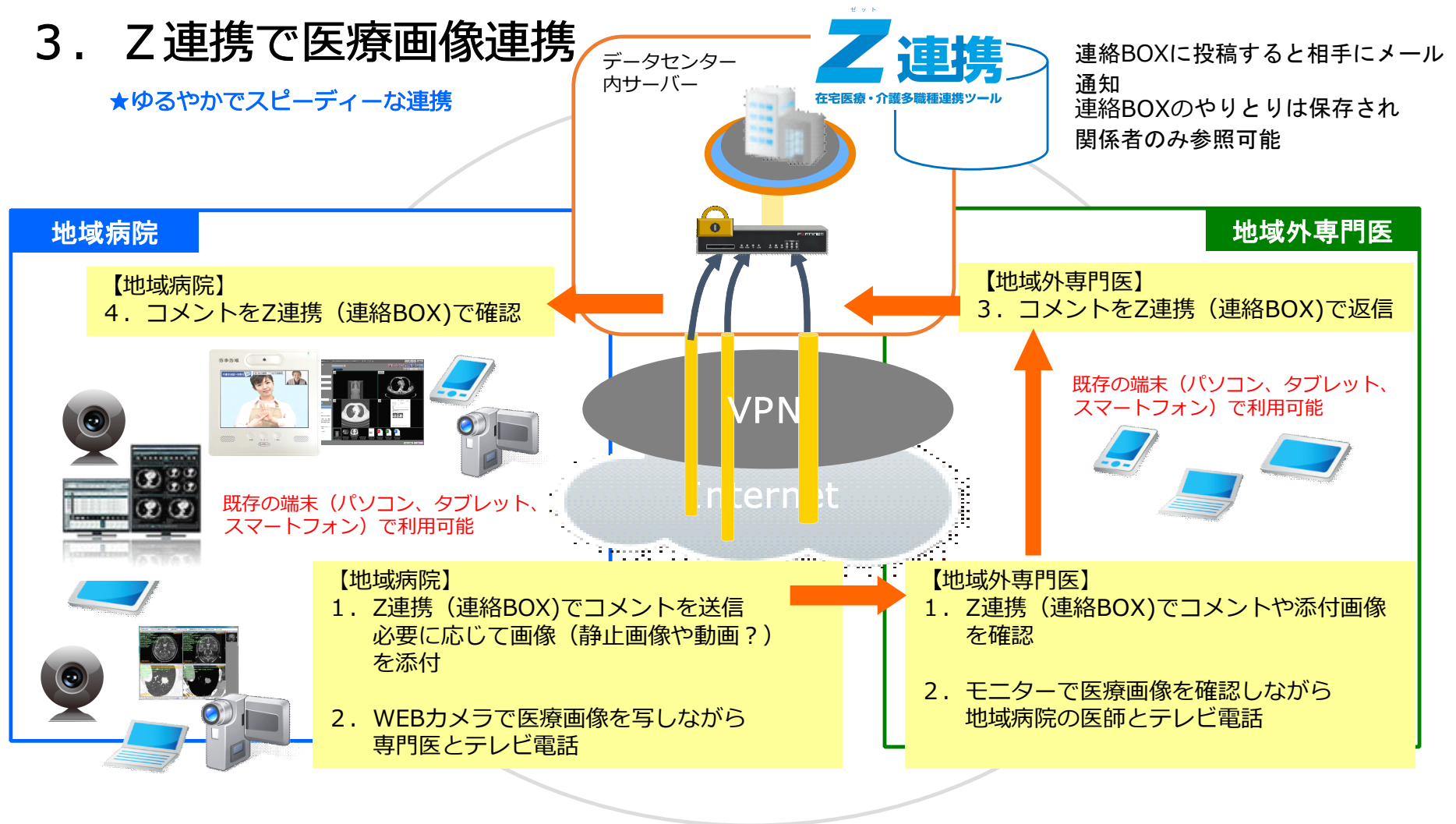
- ・実績、メッセージを記録、関係者のみ参照可能

★ゆるやかでスピーディーな連携

院内の医療画像データを
テレビ電話で写して
専門医のコンサルテーション
を受ける

3. Z連携で医療画像連携

★ゆるやかでスピーディーな連携



運用ポリシー 個人を特定できる情報は付与しない。療養者情報とも紐付けしない。